ふるさとの4番（2020年　敬愛大学生）

夢を求め　上京　希望あらず　荒んだ　支えてくれた　家族よ　ああ恋しい　ふるさと

人よりも　多い乳牛　お店はなく　田んぼが多い　唯一あるのはミニストップ　それも遠い　ふるさと

昔遊び　消えゆく　夢中になる　スウィッチ　かるたに凧揚げ　百人一首　忘れないで　ふるさと

自然豊か　大穴　夜になっても　遊ぼう　年を重ねても　変わらない　いつも温かい　大穴

いかが見ます　この世を　我が庵を　探して　夢は今も　花燃ゆる　新しき　ふるさと

変わりばえしない　この町　下を向く　若者　古き良き　美しい日本　世界に誇れる　我が国

夢を追った　あの日は　毎日　鮮やかな思い出　今はどこへと　探しても　見つかるのは　ふるさと

希望と愛を　つかみ取り　息子と一緒に　いってきます　太陽はずっと　輝いて　花も笑顔　ふるさと

夜に街を　歩けば　おっさんに絡まれ　蹴られる　一体何年　生きてきたの　治安が悪い　ふるさと

歴史残る　史跡よ　その名も清き　流山　豊けき幸に　麗しく　名も床しきや　ふるさと

どこもかしこも　コンビニ　徒歩圏内に四、五軒　便利で頻繁に　利用するけど　そんな作る　意味ない

変わりゆく　街並みに　過去の夢も　忘れゆく　ふと見た夕日の懐かしさは　忘れ得ぬ　ふるさと

海や山に　囲まれ　雪明かりに　照らされ　自然が豊かで　住みやすい町　心安らぐ　ふるさと

帰り道よ　懐かし　友の笑顔　絶えなく　過去の思い出　よみがえる　笑顔ばかり　ふるさと

変化のない　毎日　気付けばもう　年越し　一人ぼっち　疲れて　思い出すの　ふるさと

黄金色の　稲穂や　茜色の　絨毯　四季折々　景色が変わる　自然豊か　故郷

桜吹雪　御神楽　なじみ深い　この社　今は活気減ったけれど　絶やしはしない　伝統

柏、松戸　船橋　挟まれてる　鎌ヶ谷　畑や梨農家　多いよ　平和な街　ふるさと

秋にみれる　落花生　風が吹けば　赤土　今は人も　減りて　素晴らしき　ふるさと

ただ必死に　打ち込む　期限迫る　24時　楽しみ見えず　めぐりて　毎日おなじ　ふるさと

ただいま　私の街　ただいま　私の家　居心地　最高　何があっても　ここが私のふるさと

コロナ渦で　家で授業　気が付けば　もう夕方　子どもの帰る声　響き渡り　未来を感じる　ふるさと

幸せつかみ 分け与　みんなで共有 その時間　1人はみんな 心は1つ　いつかは繋がる その心

山の水や　虫の音 　ひとつひとつ　懐かし 道の草や　匂いも 　わすることもできない

外出られぬ　コロナ禍　　マスク　消毒　ソーシャルディスタンス　　もうそろそろ　一年たつが

かつて通った　あの道　おもかげなく　去る日々　新たな色味が　狂わせてく　変わり果てた　ふるさと

人の見えぬ　公園　忘れがたき　思い出　遊具　さびれ　音は鈍く　移り変わる　ふるさと

都会で　見上げた夜空　どこを見ても星はない　早くうちで見上げたい　満天の星空を

都会で見る電車は　ホームに来ても　まだ速い　通り過ぎてしまうんじゃないかと　勝手に慌てる毎日

淡く浮かぶ　青春　懐かしけり　思い出　強くなりし　望郷の念　今も愛す　ふるさと

海山川自然や　都会産業すべての　魅力が多く　詰まっている　誇り高き　ふるさと

優しい人　大勢　暗い気持ち　吹き飛ぶ　小さい頃から　暖かい声　ここはいつも　ふるさと

右をみれば　江戸川　左みれば　利根川　埼玉が　すぐそこ　醤油の街　ふるさと

歴史残る　我の地　伝えゆくよ　伝統　祭りや学校　多くの場所で　忘れぬように　いつまでも

心奥で　励ます　思いつのり　過ぎ去る　夢に向かう　これからも　祈り続ける　ふるさと

周りの環境　日々変化　周囲の人々に染められて　身も心も成長し　落ち着く　ふるさと

まわり見ると　ご年配　喫茶店で　おしゃべり　公園でも　おしゃべり　高齢化社会　ふるさと

緑多し　街並み、花時には　笑顔あり、こぼれ桜の切なさを感じ、これが私の　故郷

大学に入学　これから　たのしみなことたくさん　コロナ渦に巻き込まれ　いつ帰れる　ふるさと

未だにある　我が母校　校庭には　人なし　家でゲームにスマホばかり　田舎でも変わる　ふるさと

豊かな土　耕し　育てた時　　いつの日　いまや人は　減りゆき　砂舞うだけ　ふるさと

地元離れ　都会へ　夢を追いかけ　ひとりで　都会に染まって　地元のこと　忘れないで　ふるさと

緑の中　探した　秘密基地で　すごした　小さい頃には　もう戻れない　記憶だけの　ふるさと

カエルの声　響いて　たまに虫の声　聞こえる　田んぼは　稲穂　垂れる　月がきれい　ふるさと

森は何処へ　行ったの　発展だけを　目指すの　人が多く　五月蠅い　もっと静かな　ふるさと

都会からも　納税　知らぬ街に　納税　意外な関係　潤う田舎　いまはどこも　ふるさと

君のことを　思いて　我の心　ここにあるらん　山は青き父母　風は吹きし　迎えし

自然豊か　富里　空気美味し　ふるさと　西瓜も有名　富里　1度食べに　おいでよ

友と遊んだ　思い出の場所　今は夢追い　都会へ　目を閉じれば　花畑の風車　思い返す　ふるさと

オンライン授業飽き飽き　大学ライフ どこいった　増えに増えるコロナ患者　いつになったら 元になる

海岸の石にあたる　波の音　薄い塩の香が漂う　微かに暖かい　風が吹く　懐かしく思う　故郷